

NEXT
55



みんなの力で、みんなの幸せを

SAWARABI

さわらび

1 表紙 第44回 新城マラソン大会完走

2 医学講話 認知症の人から見た世界

◆福祉村病院 外来診療部長/日本神経学会専門医
日本内科学会認定医/日本認知症学会専門医
認知症サポート医/愛知県公安委員会認知症認定医 継 泰城

6 特集 さわらびグループ2019年度 第11回 職員研究発表会

2020
vol.562 **2**



2019年度インドネシア&フィリピン EPA看護師候補者・介護福祉士候補者来村

2019年12月10日第二さわらび荘にて、フィリピンからの候補者8名と、12月18日フェリス福祉村にて、インドネシアからの候補者10名の歓迎会が行われました。



12月10日 フィリピン/8名



12月18日 インドネシア/10名

福祉村病院 看護師候補者紹介

アガカオリ ジュディエル デルモロ フィリピン	ダヴィド ネリザ カルブ フィリピン	マニエゴ ダンドレップ バラグタス フィリピン	サルビリア マイケル ダン タリエ フィリピン	ブンガイ エイドリアン ベルナルド フィリピン
シジ サハロニ イスマテウラハ インドネシア	クリスティ ウィディヤニ インドネシア	ストゥリスノ エル インドネシア	ムハammad ファドリ アル ファジュリ インドネシア	リニ ムスタリ ティビ インドネシア

(上:氏名、下:出身国)

介護福祉士候補者紹介

福祉村病院 センゾン エルナンド レイエス フィリピン	福祉村病院 アスマウルクスナ ヌライリ インドネシア	ジュゲム ホイロン ニッサ シトゥモラン インドネシア	ジュゲム サンティ マリアンジュ シタンガン インドネシア
第二さわらび荘 スイ マイケル デクステル コラゴ フィリピン	第二さわらび荘 アドルフ クラティン カブレ インドネシア	さわらび荘 アドルフ クラティン カブレ フィリピン	珠藻荘 アディ プラセティヨ インドネシア

(上:就労施設、中:氏名、下:出身国)

news of study
研究通信
Vol. 142
福祉村病院神経病理研究所 所長
橋詰 良夫

脳性麻痺の臨床病理

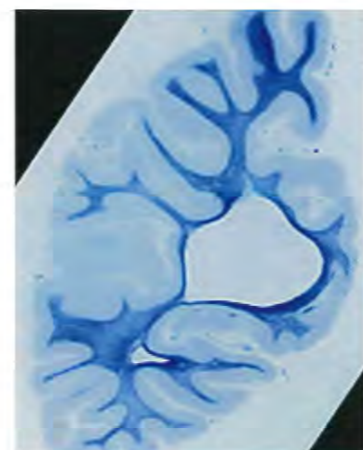
◆**脳性麻痺の臨床**
脳性麻痺とは子宮内あるいは周産期、発達期の脳に障害を受け、永続的な非進行性の運動障害を残した状態をいう。脳性麻痺は臨床兆候から片麻痺、対麻痺、四肢麻痺のような痙直性脳性麻痺や、アテトーゼ型、失調型、弛緩性麻痺などに分類される。脳性麻痺の原因として病理学的には脳室周囲白質軟化症、孔脳症、多嚢胞性脳軟化症、皮質下出血、皮質形成異常など多彩な脳障害が指摘されている。特に痙直性脳性麻痺の原因として脳室周囲白質軟化症が注目されている。本稿では脳室周囲白質軟化症の臨床と病理について概説

◆**脳室周囲白質軟化症の病理**
脳は小型で脳重量が少なく、全体としてこじんまりしている。大脳皮質には著変を認めず、白質に主病変

◆**おわりに**
社会福祉法人さわらび会には障害者支援施設があり、脳性麻痺による重度の運動障害をもつ入所者の方も多くみえます。脳性麻痺の原因を正確に判断し、臨床症候、脳画像所見を分析して一人ひとりにあった適切な介護、リハビリを行い、安心安全な施設での生活が送れるような支援が必要です。脳性麻痺の病態を正確に把握するためにも、画像と合わせ

◆**脳室周囲白質軟化症の臨床**
脳室周囲白質軟化症は periventricular leukomalacia (PVL) と呼称され、早産児に認められる中枢神経病変で、脳室周囲白質の壊死、嚢胞形成を主体とするものと嚢胞を形成しない非嚢胞性びまん性白質障害がある。出生前、周産期、出生後の時期に未熟な脳への低酸素、虚血による侵襲により生じる。PVLの好発部位は側脳室三角部から後角の脳室周囲白質で、この部位は動脈の灌流境界領域にあたると思われる。痙直性麻痺の運動麻痺に加えて、知的障害、てんかんを伴う。画像では側脳室の壁不整を伴う拡大、白質容量の減少、脳梁菲薄FLAIR画像での深部白質異常高信号、基底核、脳幹の二次的容量減少を示す(図1)。

があり、白質の面積は極めて狭く、脳室が不規則に、後方有意に拡大を示す(図2)。脳室周囲白質は組織が粗鬆化し、髄鞘化した有髄線維は少なく、脳梁も萎縮を示す(図3)。白質の稀突起膠細胞の数は減少しているが、マクロファージの浸潤はなく、明らかなグリオシスも認められない。脳幹、脊髄は大脳白質の萎縮により、二次的に萎縮を示す。



(図3)



(図2)



(図1)

特集

さわらびグループ2019年度

2019年10月17日に「さわらびグループ2019年度 第11回 職員研究発表会」を開催し、医療分野・高齢福祉分野・障害福祉分野から10チームが発表を行いました。

また、審査員としてお忙しい中、豊橋市社会福祉協議会 参与 松井晴男氏、豊橋創造大学専攻科福祉専攻科長 教授 大林博美氏に参加していただき、ご講評いただきました。

最優秀賞

認知症リハビリプロジェクト「野球・卓球」の取り組み

福祉村病院 リハビリテーション部 作業療法士 船藤 悠太



取組・目的

認知症リハビリプロジェクトでは患者様に馴染みのある活動を通して、QOLの向上や認知機能の低下予防に取り組んできました。先行研究では継続した運動習慣や快刺激が認知機能の改善に効果がある事が報告されています。今回の研究では、認知機能の低下をきたした一人の症例に対して、一定の期間内で「野球・卓球」の介入頻度を高め、運動の習慣化を図ることで認知機能の改善を図りました。また介入時にほめる事を意識して行い、快刺激を与える事で認知症の周辺症状や介護負担感への影響を評価しました。

介入方法

通常の認知症リハビリプロジェクトの介入頻度である週に1回の介入期間をA期間、介入頻度を高め週に5回の高頻度介入期間をB期間として、A→B→Aの順番で各期間一ヵ月介入を実施し、合計三か月間の介入期間を設定しました。研究開始前後で①HDS-R②MMSE③FIM④BI⑤NPI⑥Zarit介護負担尺度⑦FABの7項目を実施し、認知機能、認知症の周辺症状、介護負担感、身体機能の各方面から評価を行いました。各介入時の前後ではフェイススケールを参考に表情の変化や介入時の様子、発言内容を聴取しました。

結果

高頻度介入期間では「来るのを待っていた」、「今日はいつもより来るのが早いね」等の発言や自ら卓球へ参加されることもあり、活動が定着している様子がみられました。評価結果では、身体機能は研究開始前後で変化はみられませんでした。認知機能は開始時と比較して最終評価で若干の改善を認めました。認知症の周辺症状、介護負担感においては研究開始前後で改善がみられ、特に高頻度介入後に大きな改善がみられました。

認知症リハビリプロジェクトでは、今後も患者様と共に楽しめる活動を提供し、QOLの向上、認知機能の改善を図っていきたいと思います。

第11回 職員研究発表会



前列左側から●豊橋創造大学 教授 大林博美氏
豊橋市社会福祉協議会 参与 松井晴男氏
理事長 山本孝之
専務理事 山本ゆかり
CEO/DEO 山本左近

最優秀賞

介護職員の職場環境整備から腰痛予防を目指した取り組み

特別養護老人ホーム さわらび荘 介護士 青木 晴美
介護支援専門員 宮崎 真理子



取組・目的

介護職員の問題として、以前から腰痛を発症してしまう問題がありました。介護職員に対して、具体的にどの介助に身体的負担を感じるかのアンケートを実施したところ、移乗介助、入浴介助、排泄介助の順で負担を感じる職員が多かったです。身体的負担の中でも、腰痛で悩んでいる職員が多数いました。今回介護職員の身体的負担、特に腰痛予防に焦点を当てた取り組みを行いました。

現状

腰痛予防対策として、介護職員が負担に感じている移乗介助に焦点を当て、介護用品の導入を進めました。当初はスライディングボードを導入してみましたが、活用には至りませんでした。次の対策として、移乗用リフトの導入を検討しました。

具体的な取り組み紹介

移乗用リフトの導入を進めるが、時間がかかる、操作方法に自信がない、人間味に欠ける等マイナス意見が目立ちました。それらのマイナス意見に対し、例えばリフト使用に要する時間は5分程度であること、取り扱い専門職員を決め、使用時にはその職員の許可を必要とする体制作りなどを提示し、さらに使用時間を職員の負担が大きく、時間的な余裕がある夜勤明けの離床介助の時に使用することを決め実践していきました。徐々に移乗用リフトの利便性が介護職員の間で周知されるようになりました。

活動の成果と今後の課題

移乗用リフトを導入したことで、介護職員の移乗時に負担を感じる割合が95%から50%へ減少したことから、介助時に感じる身体的負担軽減につながりました。また腰痛による介護職員の休業が発生せず目標を達成しました。入居者様の観点からは、移乗時等にできたと思われる内出血等の痣の発生が導入フロアでは激減し、入居者様の生活の質の向上につながりました。今後の課題として、現在1階、3階フロアで活用しているリフターを2階フロアでも導入を進めること、また移乗介助の次に身体的負担が大きかった入浴介助時の負担軽減を目指すため、浴室への移乗用リフトの設置を進める必要があります。

優秀賞

入浴前の泡浴実施の取り組み ～泡浴の効果～

福祉村病院 看護師 加藤 理恵
看護師 竹島 樹里



加齢により新陳代謝が低下すると皮膚の弾力性の低下、脆弱化が起こり皮膚に傷ができやすくなり治りにくい。これらを予防するためのスキンケアの要素として洗浄、保温、保護があり、刺激を避けるため十分な泡で愛護的に洗浄することが推奨されている。そこで今回、入浴前に泡浴を実施したところ、汚れや角質が除去出来ており皮膚色の明るさがみられた。蓄積した皮膚の汚れを落とすには適していると考えられる。また、入浴前に行えるため入浴介助スタッフの人数に左右されず、より良い効果的な清潔ケアが出来たと考える。

優秀賞

自宅退院に向けての退院支援を振り返って

福祉村病院 看護師 吉原 真三子
看護師 ラス ジェネリン タン



今回、脳梗塞により片麻痺を生じ、PEG栄養・気管切開の管理も要する患者様が自宅退院することができた。入院時より本人、家族ともに自宅退院の希望が強くあり、自宅退院に向けて幾度も意向確認と相談をしてきた。在宅での気管切開部の管理と吸引、PEG栄養の管理、オムツでの排泄に対して不安があり、それらの指導を開始した。指導の中で課題点が明確になり、院内外の他職種と連携を図りながら退院支援に取り組み、在宅療養に至ることができた。この症例を通して、それぞれの職種が情報を共有し、同一目標に向かってアプローチを行う事が重要であり、看護師はチーム間の連絡や調整役としての役割が大きいことを再確認した。

奨励賞

業務改善『障がいのある職員 と協力して働く』

障害者支援施設 あかね荘
生活支援員 小寺 莉可
生活支援員 大谷 孝広

あかね荘は、ご利用者様へのサービスを向上させることを目標に、日々業務改善に取り組んでおり、障がい者雇用の皆さんとの業務連携をしています。特に知的障がいという特性を理解した上で、その強みを活かした取り組みを報告しました。タイムスケジュールを障がい者雇用の方に提示した結果、スムーズに業務を行う事ができ、私たち職員は利用者支援業務に専念できるようになりました。

奨励賞

小規模特養による地域との 関わり

特別養護老人ホーム カサ デ ヴェルデ
介護支援専門員 河合 昭徳

地域密着型特養施設として、地域交流を通し、地域の貢献度や利用者の生活レベルがどの程度向上しているかを、小学校の交流会や施設行事を通し検証してみました。地域との交流や行事参加を通した結果、当初あった近隣苦情は激減した。利用者のFIMの数値に大きな変化はなかったが、今後は計画をたて、改善に取り組みたい。

優秀賞

生活スタイル改善 その先へ

特別養護老人ホーム 第二さわらび荘 介護士 後藤 日歌里
介護士 萩原 幹樹



第二さわらび荘では2017年9月から、食事意欲はあるも座位保持が難しく、食事介助が多くなっている利用者A様の食事自立摂取を目指し、生活スタイルの改善取り組みを行った。A様の、①食事環境、②食事姿勢、③多職種との連携、の3項目に対し順次見直しを行い、1年後の2018年9月には座位保持と食事の自立摂取ができるようになった。座位保持が難しかった2017年6月のFIM評価39点から、2019年6月のFIM評価は45点まで上昇し、A様もリハビリに対して前向きな姿勢をみせられるようになった。今後は椅子での座位保持時に左右の傾きがみられる問題の解決を目指し、環境の改善を行っていく。

優秀賞

認知症になってもがんばっています

グループホーム 白珠 介護士 島本 晴子
介護士 小林 裕子



グループホームでの生活から考えられる認知症の進行を予防することを目標に、入居者の皆様に対する作業をお願いすることを通して、どのように変化をしたのか報告しました。最初は一人から始めた作業を、他の方も興味を示していただいたことで、認知症のレベル、作業能力レベル等カンファレンスを通して分けさせていただきました。徐々に作業に対しての意欲向上が見られ、機関誌「さわらび」の発送作業の準備を行っていただいています。今後も無理のない範囲で様々なことにチャレンジしていただき、認知症の進行予防につなげていきます。

奨励賞

知的障がい者を抱えての 8050問題

障害福祉サービス事業所 明日香
生活支援員 藤井 友毅
サービス管理責任者 安田 葉子

明日香では障がい者を持つ親が80代、子どもが50代の家族が増えてきており、親亡き後が問題となってきています。両親の入院によって、環境の変化から不安定な様子が続いたり、家族も介護負担から体調を崩したりしてしまうこともあったが、様々なサービスを知り、活用していくことで自身の負担も軽減されていきました。

奨励賞

座位姿勢の改善への取り組み

特別養護老人ホーム カサ ブランカ
看護師 大谷 万里子
看護師 三ツ井 真紀

高齢者の生活に車椅子が欠かせない中、当施設において車椅子で生活する利用者様に円背や筋力低下に伴う姿勢の変化があり、活動性の低下や、食事姿勢が悪くむせることがあった。対策として、車椅子を個人に合わせ、低床にし、背張り調整を行った。結果、活動性が向上し外出ができるようになり、ムセがなくなり食事摂取量が増えた。

車いす等のご寄付を いただきました

〈特別養護老人ホーム さわらび荘〉

昨年退所をされた益川様のご家族より、車いす等福祉用具のご寄付をいただきました。益川様は二〇一三年にさわらび荘に入所をされた方です。入所をされる数カ月前から認知症の症状が急激に悪化し、お世話をされていた弟様が困り果てて、福祉村病院の理事長先生の外来に受診をされ、さわらび荘への入所を進められた方でした。

弟様から、「山本先生やさわらび荘には本当に助けられました」と今回のご寄付となりました。大切に使用させていただきます。ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(渡邊憲)



地域包括支援センター の活動

〈さわらび地域包括支援センター〉
〈福祉村地域包括支援センター〉

十二月十三日、numoden 豊橋にて社員十三名に対し認知症サポーター養成講座を開催しました。

十二月十八日牛川中町の老人クラブ「楽友会」の参加者三十二名に対し認知症予防の為の出前講座を開催しました。

また、十二月十日に大王製紙さんをお呼びして、若菜荘の入居者様二十名の方に尿漏れパットについてのお話をしていただきました。(白井秀)



生きがい活動支援

〈グループホーム フジ〉

グループホームフジでは十月から、生け花教室の先生をされていた利用者様に講師をお願いし、定期的に生け花教室を開く試みを始めました。認知症になられても趣味の活動ができることや、活動の中で皆さんから頼りにされることで、生きがいとやりがいを持つていただけていると感じています。また、以前学校に教師として勤めていた頃の後輩の方がボランティアとしてお手伝いをしてくださることに、活躍されていた頃を思い出され、やる気を持って生き生きと取り組まれています。(白井有)



「ゆず湯」の実施について

〈障害者支援施設 珠藻荘〉

珠藻荘では十二月の冬至に合わせて「ゆず湯」を実施しました。冬至に「ゆず湯」に入ると風邪をひかずに冬を越せるといわれています。これは「ゆず湯」には血行を促進して冷え性を緩和し、体を温める効果があるからです。利用者の皆様も風邪をひかず健康に冬を乗り切つていただきたいと思えます。

利用者様からも季節感が感じられてよかったですと大好評でした。(佐宗)



健康マイレージを活用した糖尿 生活習慣病予防についての勉強会

〈障害福祉サービス事業所 明日香〉

十二月十九日、施設内の職員研修として豊橋保健所の栄養士さんをお招きし、勉強会を行いました。

まず初めに、糖尿病・生活習慣病について豊橋の現状を交えながら話していただきました。その後、病気を避けるためどのような食事を摂ったらよいかや生活のリズムなど、健康マイレージを活用した生活習慣の見直し方などのクイズを入れながら職員も考え参加できるような講義をしていただきました。

身近に感じられる分かりやすい講義だったので皆さん真剣に聞かれ質問も多く出ていました。(岸)



レクリエーションの充実

〈福祉村障害福祉サービス事業所 しらかね〉

十二月二十四日にクリスマス会を行いました。壁にサンタクロースや雪ダルマなどの作品を貼り、クリスマスツリーを飾り付けて会場を作りました。今年には福祉施設用のレクリエーションコンテンツを搭載したカラオケ機「FREE DAM」を使い、じゃんけんゲームをしたりクリスマスソングを歌ったり、とても楽しいクリスマス会となりました。これからも楽しんでいただける施設作りを努めていきます。(住吉)



年末行事を行いました

〈障害者支援施設 あかね荘〉

十二月二十日、八名のご家族の方にもご参加いただき、今年の締めくくりとなる年末行事を行いました。

利用者様に事前に意見をいただき、今年は的当てゲームをしました。点数のついた箱にボールを入れたり、ペットボトルに当てたりして点数を競いました。そのあとは、毎年恒例のリトミックをやつていただきました。クリスマスソングを中心とした盛り上がる歌ばかりで、皆さん声に出して歌ったり踊ったりと、大変楽しまれました。

短い時間ではありましたが、年末を感じることのできる楽しいひと時となりました。(小寺)



若菜荘へ年賀状を お届けしました

〈福祉村保育園〉

昨年も若菜荘のみなさんとたくさん交流会をさせていただきました。楽しかったです。毎年恒例ですが、日頃お世話になったお礼と新年のごあいさつを込めて、年賀状をお届けしました。令和二年の干支、かわいいネズミの年賀状を子どもたちが心を込めて作りました。今年も若菜荘のみなさまにとって素晴らしい一年になりますように。(岩間)

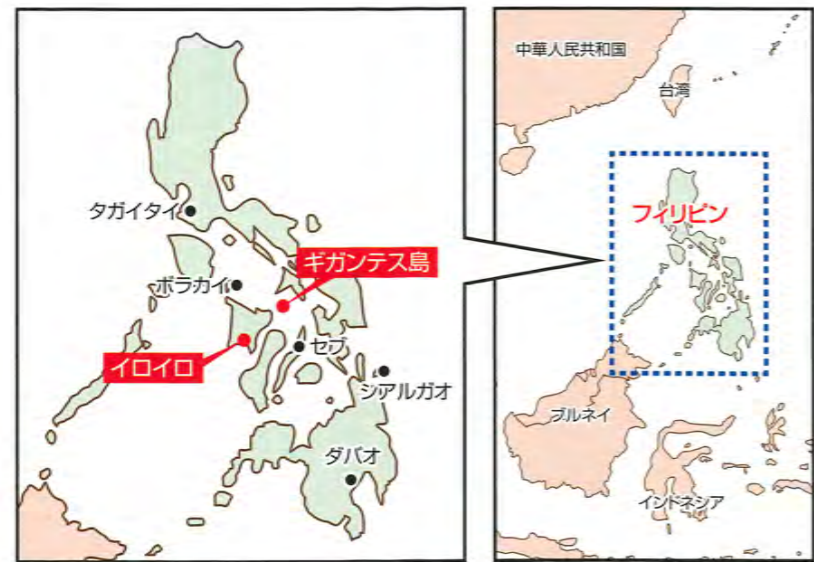


こんにちは。私はヤンと申します。私は、ネグロス島で生まれましたが、二〇一六年に家族と一緒にイロイロに引っ越すことにしました。イロイロは、パナイ島の南東部にある主要な都市です。この周辺で最も古い歴史をもつ都市で、商業の中心地です。イロイロの愛称は「CITY OF LOVE」。「愛の街」であり、その名の通り人々は穏やかで優しさに溢れています。イロイロの観光スポットはギガントス島です。ギガントス島には島が十島あります。大きな島は南と北の二つで別れています。毎年、多くの観光客がこの島にきます。イロイロからギガントス島まで、バスと小型船で五時間かかります。ギガントス島はとてきれいな所です。景色も美しい、空気がきれいです。みんな、ギガントス島に来たら、ストレスがなくなると言います。イロイロの名物はラパスバチョイです。日本

私のよめやん
 小規模特別養護老人ホーム 常盤
 アギラノアリアンメイベラカオル
 出身・フィリピンパナイ島
 イロイロ
 学歴・ウエストネグロス大学
 資格・看護師



フィリピン イロイロ周辺の主要都市



のとんこつラーメンのような感じ。レバールリック味がきいて最高です。ぶつぶつ切れるラーメンタイプ、フィリピンの春雨タイプ、フィリピンの素麺タイプから選べます。生卵又はゆで卵のトッピングでさらに美味しくなります。その他、一月の第四週末に祝われるデ INAギャン祭。これは原住民族に扮した大勢のダンサーと大きなドラムの音で構成された祭りです。イロイロに来て体験してみてください。

ドクトール金井の書齋
Dr. Kanai's Literary Box




東京杉並の一隅に住み着いて早四十年、猫の額の如き小庭も草木生い茂り体をなす。中でも主役は桐の木、周囲は悠々二メートルを凌駕するほどに成長を遂げた。桐の葉は最盛期、団扇ほどになる。その間、人知れず紫のナイーブな花を咲かせる。夏には日陰に一役買い、晩秋には小児の手のひらほどの大きさになって土に帰る。一方小枝は小鳥の絶好の止まり木になる。多分主の去った桐の枝は小鳥の足の温もりを感じつつ来春の新芽の準備に動んでいるのである。一方花梨の木は、三メートルを遙かに越える中木に成長し、梨のよううで楕円形の果実を宿すのだが、我が庭ではそれがまだひ弱で一メートルにも満たない、生長の過程にあつて桐の木とは好対照を成す。寒い季節にもめげず、濃黄色の小判、否、大判型の葉が年を越えても尚健在、冬の寒空の下で人の心に暖を醸し出す。冬とは言えこの写真の背景には濃緑に色づいた面長の琵琶の葉が恰も襖絵の様に裏打ちしているようである。



筆者撮影

第69回 さわらびキッチン
栄養士のつぶやき
 珠藻荘 管理栄養士 黒柳啓子

立春を過ぎると暦の上では春ですね。とはいえまだまだ寒い季節、白菜や大根などの冬野菜がおいしいですが、春を感じられる野菜も出てきます。その中の「なばな」をご紹介します。なばなは、菜の花や花菜ともよばれ、アブラナ科の黄色い花の総称で、若くてやわらかい花茎や葉、つぼみを食用にします。食用以外に、觀賞用、菜種油用があります。

なばなは、βカロテンを多く含み、皮膚や粘膜の保護のほか、免疫力を高めたり、風邪やがん予防に効果があるといわれています。また、骨の健康維持に欠かせないカルシウムやビタミンK、高血圧予防に良いとされるカリウムも多く含まれています。

なばなには、特有のほろ苦さがありますが、茹でると甘味が出るので、さつと茹でてお浸しや和え物に。バターやオリーブ油でソテーしたり、アサリと一緒にワイン蒸しにしても美味しいいただけます。購入時は、なるべく花が咲いてなく、葉や茎がシャキッとしたもの、切り口が変色していないものを選ぶのがよいです。皆さんも、なばなを食べて春を感じてみてはいかがでしょうか。

Vol. 143
 relay column
さわらび会
 のわ
 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね
 久賀 千恵美


私の息子は、自然探索が好きで三年前からトレッキングと一緒に

に行き始めました。きっかけは、地区市民館のイベントで「親子でトレッキング」というのがあり、息子が興味があるから行ってみたいということに参加しました。このイベントは、年に一度しかないため、まだ三回しか行っていませんが、今年中学二年になる息子も毎回楽しみに参加しています。

一番最初のトレッキングは、葦毛湿原から神石山まで登るコースで初心者の方たちにとっては険しく長い距離でもとても辛かったことを覚えています。

一回目は、本宮山でした。神石山の時と比べて道が整っていて登りやすかったです。とても疲れましたが、達成感があり清々しい気持ちになりました。

二回目は、吉祥山のAコースで長めの距離でしたが案に登れてあまり疲労感がなかったです。今年も息子と参加できるよつ、体調管理に気をつけて仕事も頑張っていきたいです。



あいち障害者フライングディスク大会 明日香3位入賞しました

12月8日、ドルフィンズアリーナで開催された「あいち障害者フライングディスク大会」にTEAMさわらびとして明日香・珠藻荘の利用者様で構成した3チームが参加しました。明日香の利用者様で構成されたチームが3位になり銅メダルをいただきました。(岸)



- 福祉村病院 ☎(0532)46-7511
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム ☎(0532)46-7501
- 特別養護老人ホーム さわらび荘 ☎(0532)54-3501
法人本部 豊橋市浪ノ上町7-2
- グループホーム 白珠 ☎(0532)66-0082
- 地域密着型サービス事業所 常盤 ☎(0532)62-3370
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘 ケアハウス カサ デ ローザ ☎(0532)37-1209
- 特別養護老人ホーム カサ ブランカ ☎(0532)69-1701
- 地域密着型サービス事業所 カサ デ ヴェルデ ☎(0532)23-5552
- 特別養護老人ホーム 天白 ☎(0532)48-1113
- グループホーム フジ ☎(0532)54-5477

- 軽費老人ホーム 若菜荘 ☎(0532)48-1138
- 障害者支援施設 珠藻荘 ☎(0532)47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘 ☎(0532)48-2825
- 障害福祉サービス事業所 明日香 ☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね ☎(0532)48-1032
- 福祉コンビニ(東雲町) ☎(0532)69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生 ☎(0532)38-9090
- サービス付き高齢者向け住宅 シャトーローズ八町 ☎(0532)52-0005
- 介護付き有料老人ホーム フェリス福祉村 ☎(0532)47-2202



医療法人・社会福祉法人
さわらび会
理事長 山本孝之

編集後記

大相撲初場所は徳勝龍の優勝で幕を閉じました。幕内最下位の力士が千秋楽の結びで相撲を取るのも昭和以降初めて。幕尻優勝は二千年春場所の貴闘力以来二十年ぶり二人目。三十三歳の初優勝も日本出身力士では最年少。再入幕力士の優勝は初という快挙です。プロスポーツの世界で同じ場所で戦う選手達の実力の差はほんの僅か。勝利の女神がほほ笑んだのは自分を信じて毎日高いレベルの稽古を続けたからに他ならないと思います。おめでとうございます。今月号の特集はさわらび研究発表会です。より良いサービスを提供するためにはどうしたらよいか考え行動し職員全体で共有するために行われます。日々精進するのは相撲と同じだと思います。

今年の一月十七日で阪神淡路大震災から二十五年が経ち今は減災への対策が進みました。減災で自分に出る事は何かを考え今年応急手当指導員となりました。救命講習会で数多くの方へ応急手当を伝え広めたいと思います。(谷)